

平成 26 年度・平成 27 年度*人工林現況調査の結果概要

*平成 27 年度は補完調査

1 調査の目的

県内水源保全地域内の民有林（国有林以外）のスギ、ヒノキ等人工林について、平成 15 年度にとりまとめた荒廃状況と比較するため、平成 21 年度から 5 年ごとに手入れの進み具合を調査し、この推移を概括的に把握する。



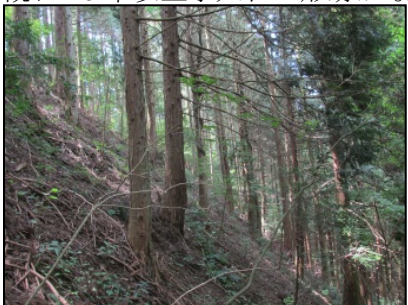

2 調査方法

現地調査として、約 1000 箇所を表 1 のように、「樹種」「林齢」「整備の頻度」「森林整備の質」「水源かん養（下層植生）」の 5 項目を記録し、集計した。

（表 1）調査項目と調査方法

No.	調査項目	調査方法
①	樹種	優占樹種から「スギ」「ヒノキ」「マツ」を把握し記録
②	林齢	森林簿を利用し記録
③	整備の頻度	「5 年以内に整備」：切断面が明瞭で平面。 「5～10 年以内に整備」：切断面の一部が腐朽しているが平面部分が残っている。 「10 年以上整備無」：切断面が全体的に腐朽しており平面部分がほぼない。
④	森林整備の質	下枯れ枝：樹冠下の枯れ枝の有無を記録 自然枯死木：自然枯死木の有無を記録 開空度：高木層の開空度を 10% 刻みで記録
⑤	下層植生	下層植被率を 10% 刻み、シカ採食、土壌流出を記録

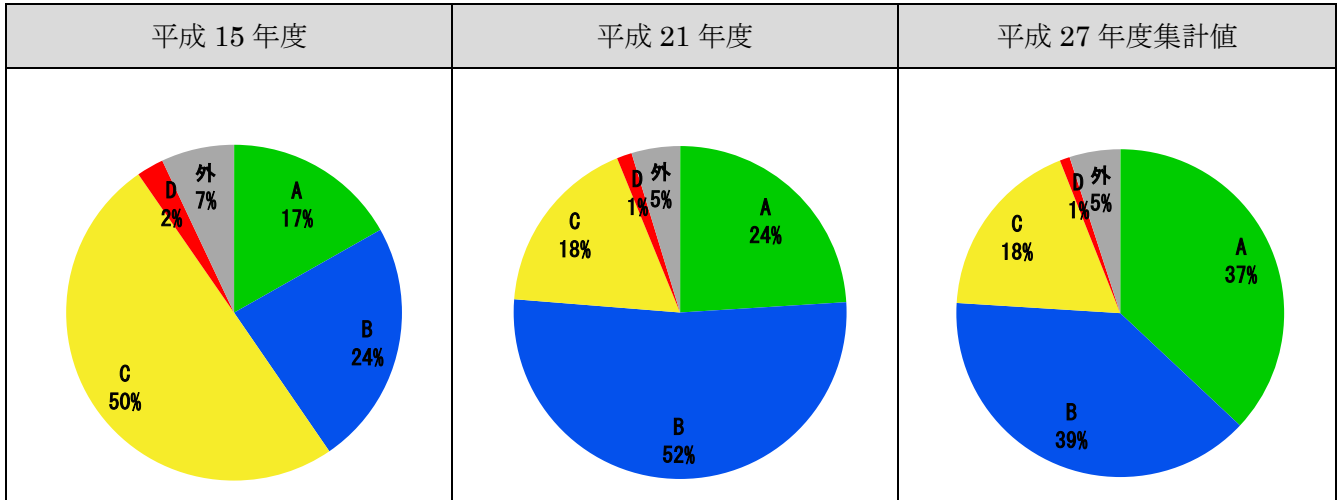
（図 1）A～D ランクの代表例

<p>A ランク「手入れが行われている」 5 年以内に整備されているか、良好に成林している</p> 	<p>B ランク「十分には手入れが行われていない」 概ね 10 年以内に整備が行われている</p> 
<p>C ランク「手入れが長く行われていない」 概ね 10 年以上手入れの形跡がない</p> 	<p>D ランク「手入れが行われていない」 手入れが行われた形跡がない</p> 

3 調査結果概要

【人工林の手入れ（A～D ランク）の推移】

- 平成 15 年度は、「手入れが行われていない人工林（C「長く行われていない」及びD「行われていない」、ランク外「人工林でない）」は 59%だったが、27 年度では24%に減少している。
- 「手入れが行われている人工林（A「手入れが行われている」及びB「十分には行われていない）」は、平成 21 年度及び 27 年度とも 76%と同じ割合であったが、内訳を見ると、27 年度のAランクの割合が 37%（21 年度調査時は 24%）に増加した。

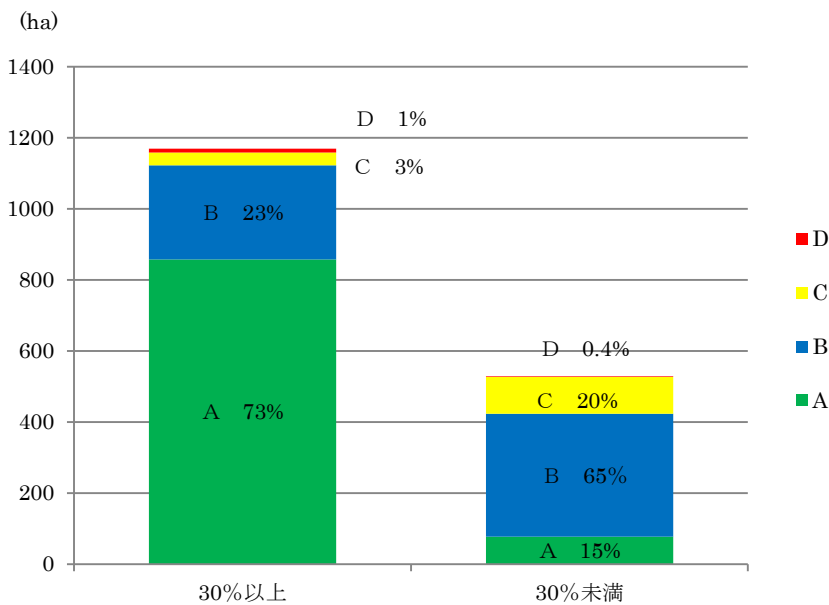


*（ランク）外：人工林ではなく広葉樹林化している。

【人工林内での下層植生の状況】

現地調査で下層植生を 10%刻みで記録し、「30%未満を植生退行に注意を要するレベル」と区分して、A～D ランクの調査結果とクロス集計した。

- 土壌流出に繋がるような植生退行を起こしている箇所（下層植生が 30%未満）では、まだ十分に手入れが進んでいないBランク人工林が 65%と多く、下層植生が 30%以上の箇所では、手入れが進んだAランク人工林が 73%と多かった。



下層植生率と人工林の手入れ（A～D）との関係